

# 学校関係者評価委員会報告書

学校法人国際ビジネス学院  
金沢医療事務専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人国際ビジネス学院 金沢医療事務専門学校の「平成 30 年度自己点検」に基づいて、学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

## 記

開催日時：令和元年 12 月 25 日（水）13:30～15:00

開催場所：金沢医療事務専門学校 会議室

### 1. 学校関係者評価委員

- ・企業等委員：岡田 美智子 氏（株式会社ニチイ学館 医療関連事業 教育・人材課課長）
- ・業界関係委員：中野 操 氏（株式会社医療サポート 金沢支店支店長）
- ・保護者代表委員：酒井 昭代 氏
- ・本校教職員：原 卓二、荒井 美有希
- ・司 会：原 卓二
- ・議事録作成：荒井 美有希

### 2. 評価項目ごとの評価・意見等

項目	評価・意見等
1 教育理念・目的・ビジョン	特になし
2 学校運営	特になし
3 教育活動	学修状況等について ・教育課程の通り、シラバスに計画された、授業内容を適切に行っているようだが、アクティブラーニングなどの教授法などをもっと取り入れ、学生を飽きさせない等の工夫をもっとお願いしたい。
4 教育成果	卒業生について ・卒業後のフォローが不十分とのことで、「同窓会」など卒業後も現在の状況を確認できる体制作りが必要と考えているようだが、それは必要か。 ・短大卒業生なども特に学校に相談せず、転職を決める場合の方が多い。派遣登録や求人サイトなど、今は学校を通さずとも情報収集の機会が多くある

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生へのアプローチ（何年かに一度集まる機会を設ける、手紙を送る、ネットワークなど）はあってもいいのでは。</li> <li>・相談するかどうかは学校や担任との信頼関係があるかにもよるのでは。学校に愛着がある場合は本人たちから連絡を取ってくると思われる。</li> <li>→定期的に連絡を取り合えるシステムを構想、また学生との信頼関係を築けるようコミュニケーションを密に取る。</li> </ul> <p>退学率について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ校の中でも退学者は少ない傾向であったが、今年度は高くなってしまった。</li> <li>→学力不足によるモチベーション低下も原因の一つ。次年度は入学前教育の取り組みを強化すると同時に相談しやすい環境づくりに取り組む。</li> </ul>
5 学生支援	<p>福利厚生について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の健康管理について、メンタルの面・身体的な面どちらもケアできる体制（常駐のカウンセラー、タンカや備蓄品など）はまだ不足している点が多い。</li> <li>・健康管理は家庭や本人の責任で管理すべき面もあるが、精神的な問題はどうか。</li> <li>・企業で職業訓練をしても、社会人になってから精神障害になったという訓練生も多くなってきている。</li> <li>→心の健康面について就職してからの「社会とのギャップ」「困難な場面にあった場合、どう打ち勝つか」ということへの指導や相談ができる環境を整える必要がある。</li> </ul> <p>・家庭環境、保護者と子の関係性も時代によって変わってきている。学校もそれに応じて動いていかなければいけない。</p>
6 教育環境	<p>学外実習について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニチイ学館様を通して、例年総合病院への学外実習を行っているが、期間が限られている。都市部の医療系学校では1週間～2週間の場合もあり、当校もそれに近づけていきたい。</li> <li>・期間を延ばすことで学生の目的意識、モチベーション、職業への意識も良い方向へ変わっていくのでは、と考えている。</li> <li>・今年度の1年生から拡充していきたい。</li> <li>→受け入れる企業側も負担が大きい。指示に対して動いていない学生も多いので、来てくれるのであればやる気を見せてもらいたい。</li> </ul>

	<p>また、積極的に行動してくれた学生の方が就職後にもやる気を感じられ、評価できる。</p> <p>→学校としても事前学習の時間を設け、実習に行ける学生について基準を明確にしていきたい。(グループ校の基準を参考にして作成する)</p> <p>・学外実習を通して、「将来の自分」を考えたりと、得られるものはとても多いので、積極的に取り組んでもらえるよう、体制作りをしてもらいたい。</p>
7 学生の募集と受け入れ	<p>広報活動について</p> <p>・広報として、色々な取り組みをしているようだが、もっとこの学校の特色を前面に出し、ソーシャルメディアの活用等も視野にいれると良いと思う。</p>
8 教職員組織	<p>情報共有について</p> <p>・教職員間の情報共有は、良くできていると思います。この教職員間の姿勢を、次年度以降も宜しくお願ひしたい。</p>
9 社会貢献	<p>クリーンデイについて</p> <p>・国際ビジネス学院として、就職した後にも繋がる良い取り組みであり、多くの学生も参加している。このような取り組みを通して、将来のボランティア活動の芽を育てて頂きたい。</p>

以上

<参考>

金沢医療事務専門学校学校関係者等評価委員会規則

《目的》

企業等の「学校関係者」による意見交換等を通じて自己評価結果についての評価を行うと共に教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、今後の学校運営改善のための助言等を行うことを目的とする。

《役割》

上記の目的を遂行するために以下の内容に関する意見、助言を行う。

1. 自己評価の結果について主に教育課程全般、進路指導に関する評価を行う。
2. 学校関係者による自己評価の評価結果を取りまとめ公表する。
3. 自己評価結果の客観性・透明性を高めるための意見、助言
4. 今後の学校運営の改善のための意見、助言

《委員》

1. 委員の選任については、理事長が行う。

ただし、以下の条件を満たす人物より3名程度選任するものとする。

- ・医療関連企業等の関係者 . . . . . 1名以上
- ・医療関係団体等の関係者 . . . . . 1名以上
- ・地方公共団体等の関係者 . . . . . 1名以上
- ・卒業生 . . . . . 1名以上
- ・学生または卒業生の保護者 . . . . . 1名以上
- ・その他理事長が必要と認めた者

2. 委員長は、委員の中より互選する。

3. 委員の任期は、2年とする。

※なお、任期中に新しく委員となる場合の任期は、在任の委員と同期間とする。

《委員会》

定例の委員会の開催は、初回に当該年度の日程を決定する。

また、必要に応じて委員長は臨時の委員会を招集することが出来る。

《自己評価、学校評価の活用方法》

学校評価委員会では、前年度の自己評価結果に対する助言を頂き、学校長が責任をもって、助言内容を学校改善に反映し、その結果を報告する。

付則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。